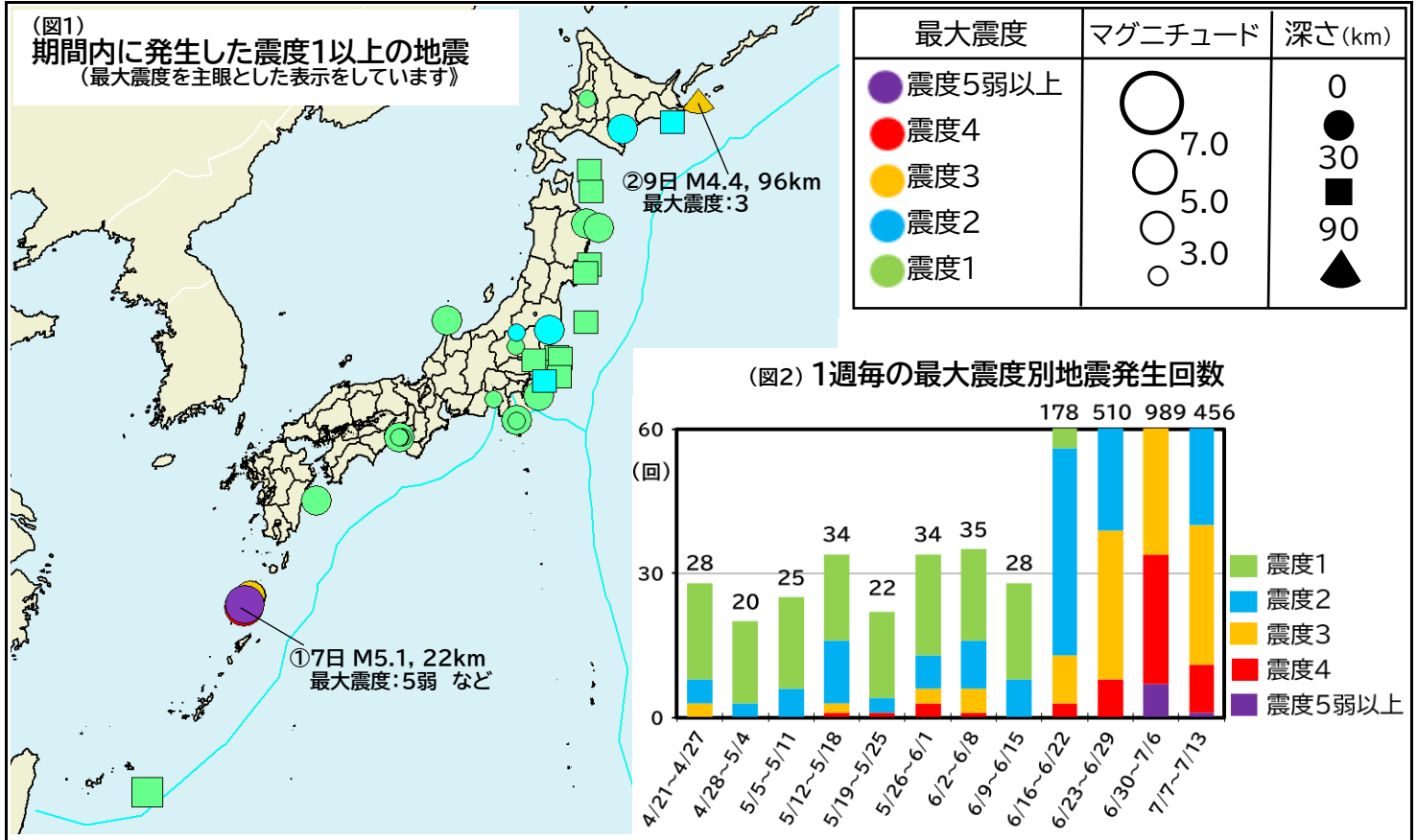


この期間の最大震度は5弱(トカラ列島 悪石島近海の活発な活動が継続)

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典: 気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況 (図1,図2参照)

- この期間、震度1以上の地震が456回発生。最大震度は5弱。トカラ列島悪石島近海の活発な活動が継続 ■
- ①7月7日00時12分にトカラ列島近海で発生した地震(M5.1、深さ22km)により、鹿児島県十島村悪石島で震度5弱、小宝島・諏訪之瀬島・奄美市で震度2を観測するなど活発な地震活動が続いている(トピックス参照)。
- ②7月9日12時39分に根室半島南東沖で発生した地震(M4.4、深さ96km)により、北海道根室市・別海町で震度3を観測したほか、道東地方で震度2~1を観測。

トピックス

- トカラ列島 悪石島近海の地震活動(活発な活動が継続) ■
- ・6月21日から活動が活発化しているトカラ列島の悪石島から小宝島・宝島にかけての海域の地震活動は、引き続き活発な活動が続いており、一連の活動により震度1以上を観測した地震は2000回を超えました。この付近で発生したこれまでの活動と比べると、震度1以上を観測する地震数が6倍にせまり、これまでの活発な期間は1週間程度でしたが、今回は3週間たった今も活発な活動が続いています(図3、図4)。
 - ・8日には、これまでの活動域から北東に30km程離れた諏訪之瀬島付近での活動もみられ、8日には諏訪之瀬島で震度3を観測する地震(M4.1、深さ3km)など、諏訪之瀬島で最大震度3を観測する地震が6回発生しましたが、一時的な活動で終わりました(図3)。
 - ・一連の活動について評価・検討するために9日に開かれた政府の地震調査委員会で、国土地理院から報告された観測結果によると、一連の地震活動に伴って地殻変動が観測されており、かつ、変化の方向が最大規模の地震(7月2日のM5.6)の発生前後から変化し、宝島観測点では東北東方向(約2cm)から南方向(約4cm)に変化した。また、小宝島でも北東方向から北北西方向に変化したとの報告がありました。
 - ・この地殻変動の原因として、マグマなどの「流体」が地面を押し広げている可能性や断層が時間をかけて動く「ゆっくりすべり」が起きている可能性など、様々な考えが報道から伝えられていますが、現時点で断定できるものはないようです。
 - ・震度1以上を観測する地震が、これまでに比べて多いのは、地震が発生している場所が島に近い/遠いや、震源が浅い/深いなどが関係しているものと考えられます。もう、しばらくの間、用心が必要でしょう。

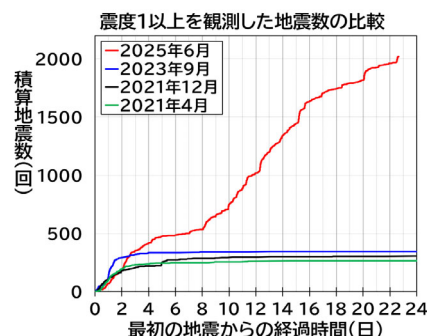
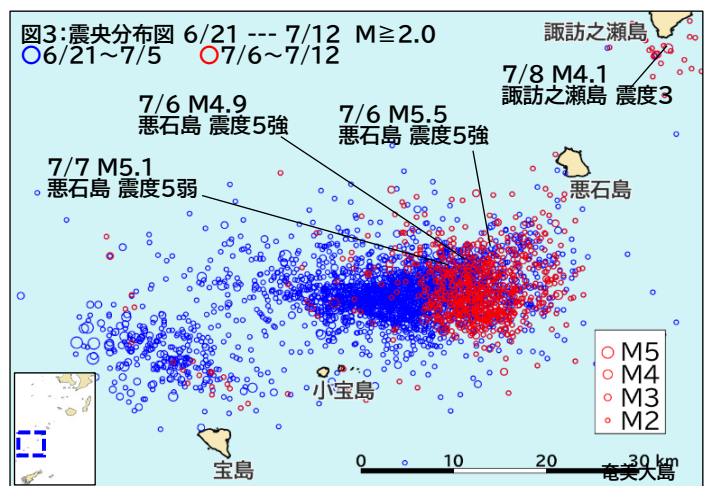


図4:震度1以上を観測した地震について、それぞれ初めて震度1以上を観測した時点からの地震発生状況(今回の回数は14日08時まで)